

第 152 回・17 年 5 月・3 級

はじめに、ある動物園のお話をします。

それは、日本で一番北にある小さな動物園のことです。全国的にお客

さんが減っている中で、ここは入園者の数がふえ続けています。そして、去年

はとうとう百万人を超えたということでもあります。特に珍しい動物がいるわけ

ではありません。それなのに、なぜこんなに注目されているのでありましょ

うか。

か。

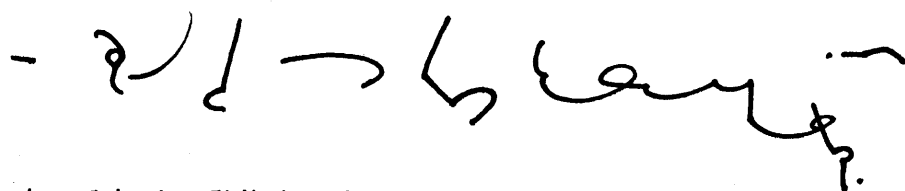
か。

か。

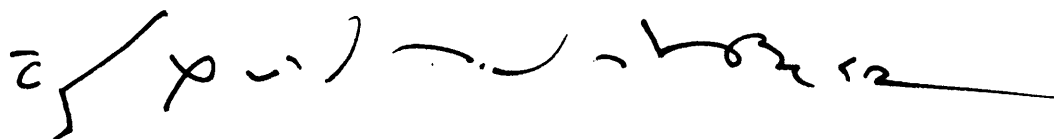
か。

か。

その理由の一つは、まず、とてもユニークな施設になっていることが挙げら

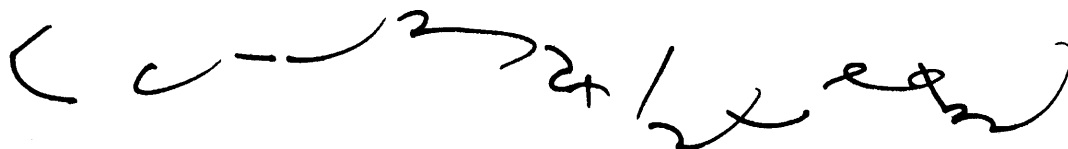


れます。それは、動物をできるだけ自然のままの姿で見せる工夫をしているの

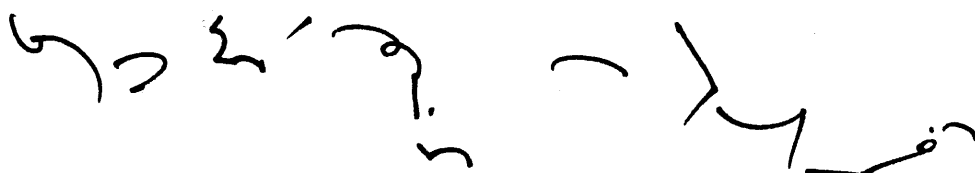


であります。

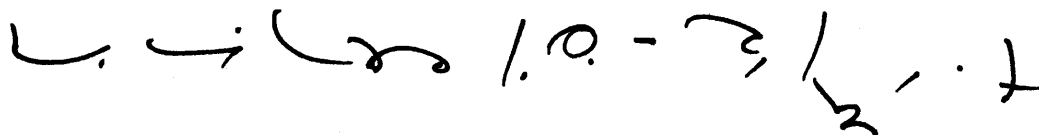
例えば、ペンギンのいるプールは水中トンネルのような形になっていますの



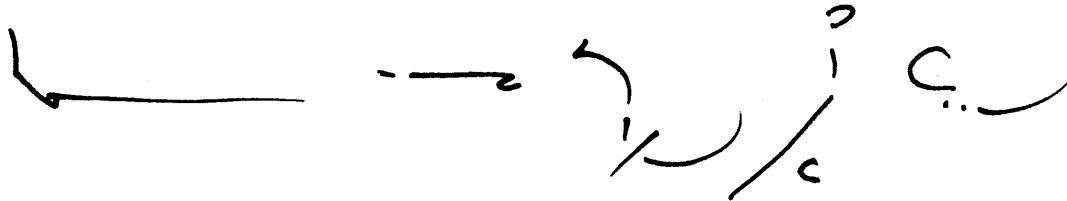
で、下からも泳ぐ姿を見ることができます。また、巨大な鳥かごがあります。



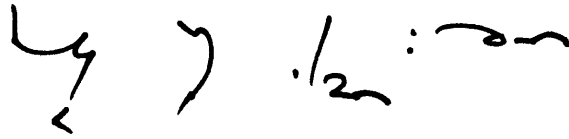
この中に人間が入りますと、鳥が自由にその周りを飛んでいる姿を観察するこ



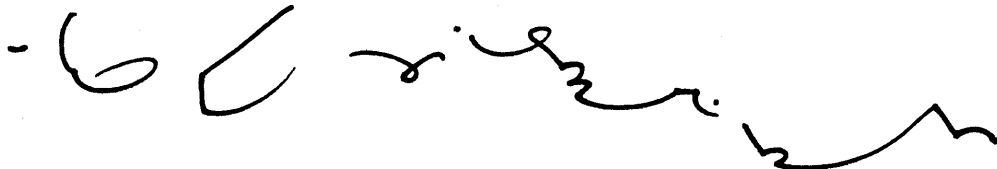
とができるのであります。それから、オランウータンの運動場は高いところに



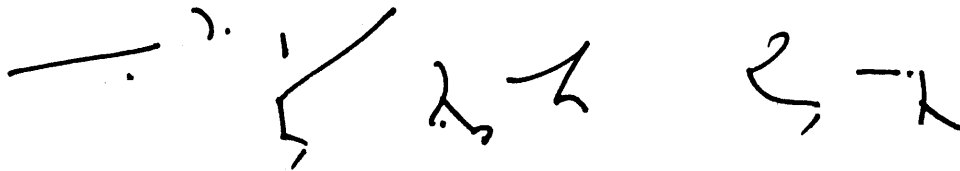
あるので、綱渡りをしてえさをとりに行く姿が見られます。



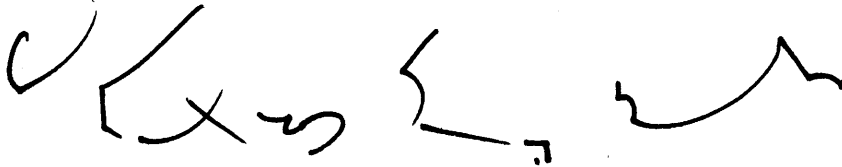
そのほかにも、動物の見せ方についていろいろな工夫がされているそうであ



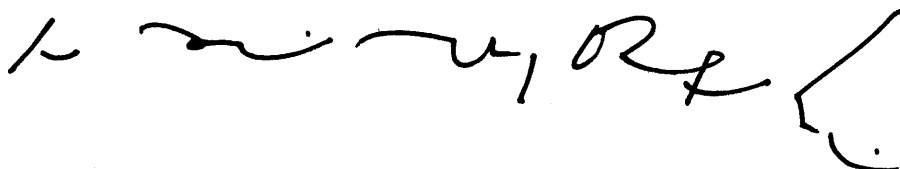
ります。こうした努力がこの動物園を支えているのだと思います。評判を聞き



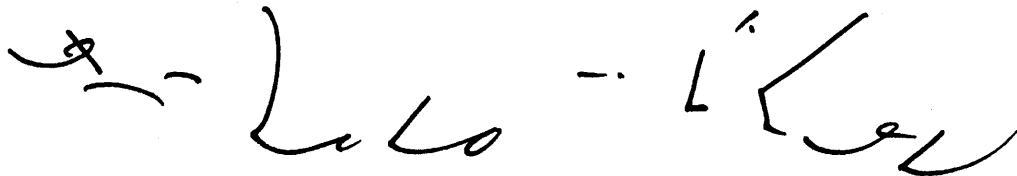
つけて、ほかの動物園の関係者もたくさん見学に来るそうであります。



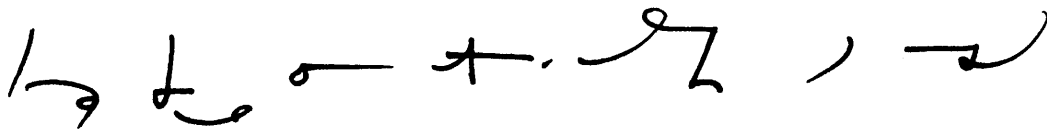
ただし、みんながまねをすると、どこも似たような動物園ばかりになってし



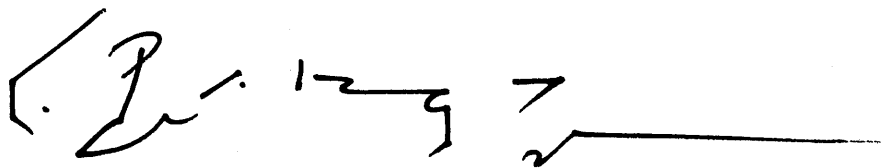
まいます。そうならないためには、それぞれ特徴ある動物園にするための取り



組みを独自に考える必要があるのではないかと思います。そして、各地の動物



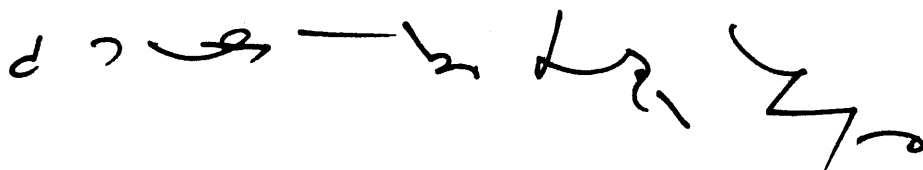
園がもっと楽しいものに生まれ変わることを期待したいものであります。



次に、日記のお話をします。



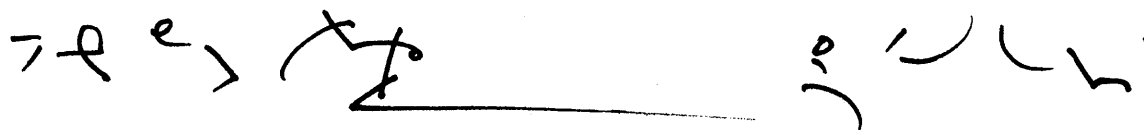
私は、今、日記を書いています。どのような理由で始めたかといいますと、



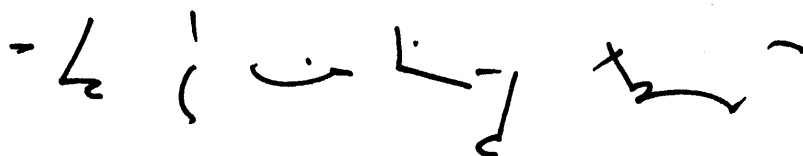
あるとき、職場の先輩が日記をつけているという話をしまして、それを聞



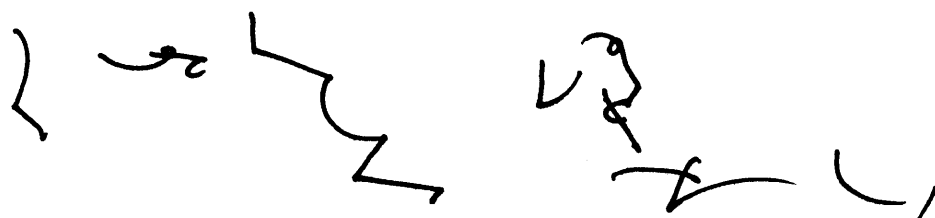
いて自分でもやってみようと思ったのであります。十年くらい前の話でありま



すけれども、そのときはこれほど長く続けられるとは思っていませんでした。



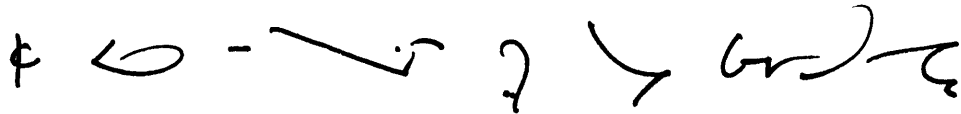
さて、日記はつけ始めたけれども、三日坊主で終わってしまったという話を



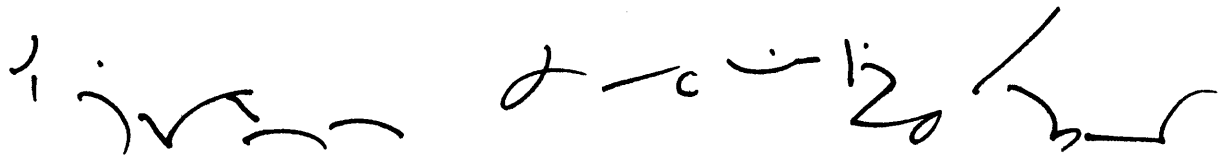
よく聞きます。もしかしたら、皆さんの中にもいらっしゃるのではないでしょ



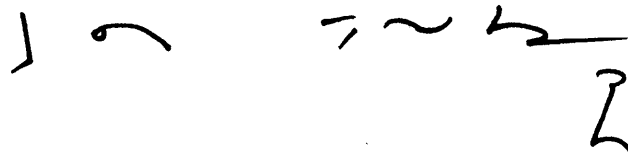
うか。実は、私にもその経験があります。最初に始めた中学生のころは、二週



間くらいでやめてしまいました。そこで、今回は、長く続けるためにはどうし



たらいいかということを考えました。それを少し御紹介したいと思います。



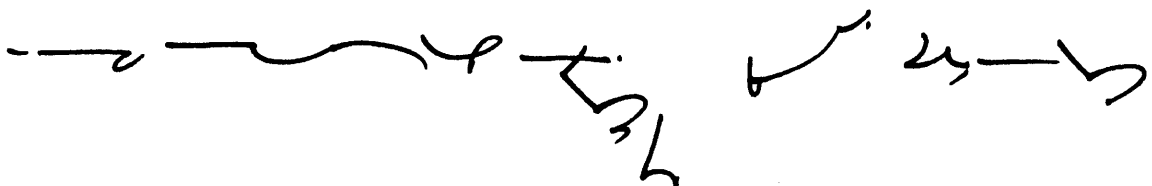
まず長さであります。毎日たくさん書く必要はありません。余り書くこと



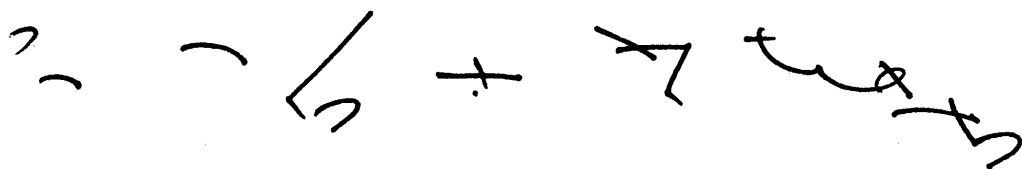
がない日もあるでしょう。そのようなときは一行だけでも構わないと思います。



それから、必ず毎日書かなくてもいいと思います。次の日に二日分を書いても



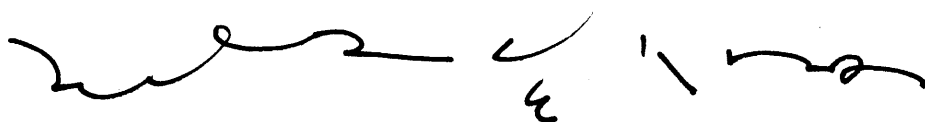
いいでしょう。また、どうしても書けずに、結果として空白になってしまっ



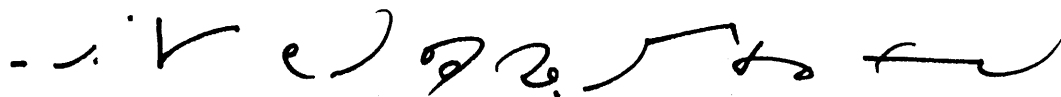
も気にしなければいいのであります。このくらいの気持ちで臨みますと楽なの



ではないでしょうか。私の場合はこれでうまくいきました。



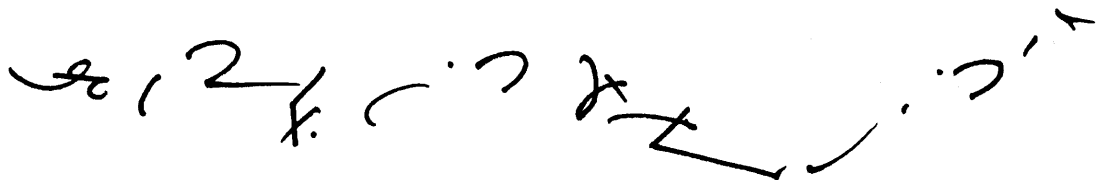
その日にあったことや自分の気持ちを文字に残しておきますと、生活の記録



になりますし、後で読み返してもとても楽しいものであります。日記は一度も



書いたことがないという方も、挫折してしまった経験のある方も、挑戦してみ



てはいかがでしょうか。(了)

